

令和4年度

事業報告 及び 附属明細書

自 令和 4年4月 1日  
至 令和 5年3月31日

公益財団法人 日本分析センター

## 目 次

I. 事業概要	1
II. 事業内容	3
(公益目的事業)	
1. 放射性物質及びその他各種物質の分析及び測定	3
(1) 環境放射能分析等事業	3
(2) 安定同位体比等の分析	4
2. 分析等に関する調査研究	5
(1) 環境放射能等の分析・測定に関する研究	5
(2) 廃炉廃棄物試料の分析・測定に関する研究	5
3. 分析等に関する精度評価、普及啓発、情報の収集及び提供等	6
(1) 分析等に関する精度評価事業	6
(2) 分析等に関する普及啓発事業	6
(3) 分析等に関する情報の収集及び提供事業	7
(収益事業)	
1. 環境放射能等の分析及び測定	10
2. ドーピング禁止物質・規制薬物等の分析	10
3. スポーツサプリメント製品の情報公開	10
4. 安定同位体比の分析	10
5. 研修	10
6. 技能試験	10
III. 事業実施場所	10
IV. 評議員会、理事会の開催	11
V. 附属明細書の作成について	12

## I. 事業概要

公益財団法人日本分析センター（以下「当センター」という。）は、昭和49年（1974年）に設立されて以来、環境放射能・放射線に関する中立的な分析専門機関として、正確で信頼性のある情報の提供を継続して実施し、国民の健康と安全の醸成に貢献してきたところである。

放射性物質及びその他各種物質の分析及び測定については、国、地方公共団体、その他機関からの調査等を通じて、環境放射能・放射線の分析及び測定を実施し、それらの結果を正確、かつ、迅速に提供した。また、安定同位体比分析では、海生生物や食品中の水素、炭素、窒素、酸素安定同位体比を測定した。さらに、スポーツサプリメント等を対象としてドーピング禁止物質・規制薬物等の分析を行った。

分析等に関する調査研究については、環境放射線モニタリングの中で公定法として位置付けられている放射能測定法シリーズの見直しと検討を実施し、改訂案を作成した。また、東京電力福島第一原子力発電所の廃止措置のための日本原子力研究開発機構大熊分析・研究センターにおける分析の質の保証に関連する支援を行った。さらに、令和2年度に採択された競争的資金「英知を結集した原子力科学技術・人材育成推進事業」における、放射線計測技術の高度化に関する研究開発を完結させた。

分析等に関する精度評価については、都道府県等の環境放射線モニタリング実施機関と相互比較分析等を実施し、これら機関の分析・測定結果の信頼性及び妥当性を確認した。また、都道府県等に設置されたモニタリングポストの測定に係る精度管理も行った。さらに、環境放射能調査結果の国際的な信頼性・透明性を確保するために、国際原子力機関（以下「IAEA」という。）や近隣諸国の分析機関と相互比較分析を行い、またIAEAと協力し、海域試料の採取・調製と複数の分析機関への試料配付を行うとともに、これら機関及び当センターの分析結果を取りまとめた。

分析等に関する教育訓練については、環境放射能分析に関しては、都道府県の実務担当者等に対して実習に重きを置いた研修を行い、技術水準の維持・向上に貢献した。原子力艦放射能調査に関しては現地調査班員等に対して技術研修等を行い、能力の向上による調査実施の円滑化に寄与した。

分析等に関する情報の収集、整理及び提供については、環境放射能に関して国民の理解増進を図るため、国等が実施した放射能調査結果を収集し、これを分類・整理し、データベースに登録するとともに、インターネットを介して公開した。また、アンチ・ドーピングのためのスポーツサプリメント製品情報公開サイトを運営した。さらに、環境放射能の水準を把握した結果や分析等の調査研究成果を、シンポジウムや学会等において発表した。

なお、国内外で感染が拡大した新型コロナウイルス感染症（COVID-19）による事業への大きな影響はなかった。

業務遂行に当たっては、分析技術や業務品質の維持・向上のために、品質マネジメントシステム規格であるISO9001、情報セキュリティマネジメントシステム規格であるISO/IEC27001及び環境マネジメントシステム規格であるISO14001、試験所の分析能力の確立に関する規格であるISO/IEC17025、技能試験の供給能力規格であるISO/IEC17043、計量法に基づいた校正事業者の能力を認定するJCSS登録を維持した。また、公益財団法人として事業運営が適切に行われるようガバナンスの充実を図り、法人運営の透明性を確保するとともに、組織体制を配慮し、より一層の事業運営の合理化、効率化を実施した。さらに、分析機関としての活動を支えるインフラとして所

内 IT 化を進めることにより、生産性の向上を図った。

## Ⅱ. 事業内容

### 公益目的事業

#### 1. 放射性物質及びその他各種物質の分析及び測定

##### (1) 環境放射能分析等事業

###### 1) 環境放射能水準調査（原子力規制庁委託事業）

我が国の環境放射能の水準を把握するため、全国 47 都道府県の環境放射能水準調査担当部署及び当センターが採取した環境試料について、以下の調査を実施した。

- ・ 全ベータ放射能測定（定時降水 238 試料）
- ・ ガンマ線放出核種の測定（大気浮遊じん 12 試料、大気浮遊じん高感度分析 52 試料、月間降下物 12 試料、粉乳 12 試料）
- ・ トリチウム分析（月間降水 48 試料、生物 9 試料、大気 83 試料）
- ・ ストロncio 90 分析（環境試料 1200 試料、大気浮遊じん高感度分析 12 試料）
- ・ プルトニウム分析（土壌 98 試料、大気浮遊じん高感度分析 12 試料）  
なお、プルトニウム濃度の高い土壌試料 15 試料について、アメリカシウム 241、キュリウム 242 及び 243+244 の分析を行った。
- ・ ヨウ素 129 分析（環境試料 21 試料、大気浮遊じん高感度分析 12 試料）
- ・ 炭素 14 分析（環境試料 12 試料）
- ・ 大気中の放射性希ガス濃度測定
  - クリプトン 85 分析（札幌市 48 試料、秋田市 48 試料、千葉市 50 試料）
  - 放射性キセノン分析（千葉市 690 試料）
- ・ 福島県下における環境放射能調査
  - 空間放射線量率の調査（80 ヶ所）

###### 2) 原子力艦放射能調査（原子力規制庁委託事業）

原子力艦寄港地である横須賀港（神奈川県）、佐世保港（長崎県）及び金武中城港（沖縄県）周辺の環境放射能を調査するため、原子力艦寄港時に寄港地への調査員の派遣及び現地での放射線量の監視と海水の放射能測定、原子力艦出港時及び出港後に採取される海水及び海底土の放射能分析（横須賀港 17 隻、佐世保港 3 隻、金武中城港 14 隻）、定期調査として四半期ごとに採取される海水、海底土及び海産生物の放射能分析、可搬型モニタリングポストによるバックグラウンド測定、積算線量測定並びに大気中の放射性ヨウ素の分析を実施した。

原子力艦放射能調査支援事業として、横須賀港、佐世保港及び金武中城港のモニタリングセンター等に配備されているモニタリング機器について、定期点検等の機能維持措置を実施するとともに、横須賀港においては、リエゾン（モニタリング実施連絡調整員）を常駐させ、モニタリング機器に係る現状把握及び異常発生時における迅速な報告を担保した。また、モニタリング機器更新のための仕様検討を実施し、更新仕様案を原子力規制庁に提供した。

###### 3) 福島県沖等における海域モニタリング（環境省請負事業）

東京電力福島第一原子力発電所事故に伴い発生した ALPS 処理水の海洋放出を翌年度に控え、放出前の福島県沖の海水及び水生生物（魚類、海藻類）中の主にトリチウムを対象とした、以下の海域モニタリングを実施した。

- ・ 海水（トリチウム、トリチウム（迅速分析）、主要 62 核種+C 炭素 14）
- ・ 水生生物（トリチウム、C-14 及び I-129）

#### 4) その他の環境放射能等の分析・測定

国、地方公共団体、研究開発法人、公益法人等からの依頼に基づき、環境試料の採取、前処理、ガンマ線放出核種やストロンチウム 90 等の放射性核種の分析・測定や可搬型ゲルマニウム半導体検出器、サーベイメータ、積算線量計等による空間放射線量率等の測定を実施した。

#### (2) 安定同位体比の分析

食履歴や成分由来などの情報を得る手掛かりとなる、海産生物や食品等に含まれる水素、炭素、窒素、酸素の安定同位体比の分析を実施した。

## 2. 分析等に関する調査研究

### (1) 環境放射能等の分析・測定に関する研究

#### 1) 放射能測定法シリーズの改訂（原子力規制庁委託事業）

分析及び測定法に関して、国内外の最新の情報や知見を取り入れ、種々の検討を行い、「緊急時における放射性ヨウ素測定法」の改訂案を作成した。また、「トリチウム分析法」の改訂案の検討及び改訂案を作成した。さらに、「緊急時における環境試料採取法」については英語版を作成した。

### (2) 廃炉廃棄物試料の分析・測定に関する研究

#### 1) ISO/IEC17025 認定に向けた支援作業（JAEA 委託事業）

放射性物質分析・研究施設第1棟（大熊分析・研究センター）で行う予定の ALPS 処理水中のトリチウムの放射能測定業務のための、ISO/IEC17025 認定に向けた規格適合性確認、文書・記録類の作成、マネジメントレビュー及び内部監査の体制構築・実施支援を実施した。

#### 2) トリチウム分析研修及び試験所間比較（JAEA 委託事業）

ALPS 処理水中のトリチウムの放射能測定業務のための、ISO/IEC17025 認定に向けた要員の力量担保及び外部精度管理のための、研修及び試験所間比較を実施した。

#### 3) 放射能分析装置への LIMS 構築作業（JAEA 委託事業）

ALPS 処理水中のトリチウム分析データを ISO/IEC17025 に準拠した形で管理するための放射能分析装置（液体シンチレーションカウンタ）へのラボラトリ情報管理システム(LIMS)を JAEA 向けに構築し提供した。

#### 4) 外部資金等に基づく自主・共同研究開発

令和2年度に採択された競争的資金「英知を結集した原子力科学技術・人材育成推進事業」において、放射線計測技術の高度化に関する研究開発を行った。

##### ・ $\beta$ 、 $\gamma$ 、 $X$ 線同時解析による迅速・高感度放射性核種分析法の開発

（課題解決型廃炉研究プログラム：令和2年～令和4年）

燃料デブリや放射性廃棄物を対象とした核種分析における化学分離プロセスの大幅な軽減を目指し、 $\beta$ 、 $\gamma$ 、 $X$  線スペクトルデータを同時に統一的に解析し核種分析能を大幅に改善するスペクトル解析法（SDM 法）を新規に開発した。令和4年度は、新潟大学、九州大学、量子科学技術研究開発機構、大成建設及び日本原子力研究開発機構と共同で、液体シンチレーションカウンタ、シングルス Ge 及び多重  $\gamma$  線計測の測定データを統一的に扱うコード開発、分析対象である 40 核種のスペクトル統合データベースの整備、SDM 法に適した粗化学分離スキームの構築及び SDM 法の高精度化のための機械学習を用いた核種識別法開発を行い、最終的に既存の核種分析法と比較して大幅に分析工程の短縮化が見込める新たな核種分析法を開発した。今後は本事業で修得した多重  $\gamma$  線計測技術を活かし、環境試料中の低濃度核種の高感度測定に関する検討などを行う予定である。

また、科研費「安定同位体を用いた水溶性ビタミンの原材料識別方法の確立」を採択（基盤研究 C、研究期間：令和4～7年度）した。

### 3. 分析等に関する精度評価、普及啓発、情報の収集及び提供等

#### (1) 分析等に関する精度評価事業

##### 1) 試験所間比較（技能試験）

環境放射線モニタリング実施機関等の分析・測定技術の信頼性・妥当性を確保することを目的として、当該機関と当センターの両者で当該機関が採取した同一の環境試料を分析及び測定し、試験所間比較（技能試験）を行い、分析・測定結果を評価した。

##### 2) 標準物質の調製・配付

環境放射線モニタリング実施機関等の分析・測定技術の信頼性・妥当性を確保することを目的として、当センターにおいて標準物質を調製し、配付した。分析機関より受領した分析結果については、En スコア及び z スコアによる評価を行った。評価結果が不満足であった機関については、必要な技術支援を行った。なお、技能試験に関しては、ISO/IEC17043 に準拠して運用した。

年度末に、都道府県の環境放射能水準調査担当者を交えた精度管理に関する検討会を開催し、精度管理事業についての結果講評や意見交換を行った。

##### 3) モニタリングポストの測定に係る精度管理

環境放射能水準調査において 47 都道府県に設置されているモニタリングポストのうち、バックグラウンドレベルでのクロスチェックである環境場測定法及び基準ガンマ線源を用いた現地校正等の標準照射法を 8 か所で実施した。なお、ポスト近傍における核種組成確認測定をうち 1 か所で実施した。

また、福島県下の 80 地点において設置されている可搬型モニタリングポストのうち、環境場測定法及び現地校正を各 3 か所で実施した。

##### 4) IAEA との試験所間比較分析（原子力規制庁委託事業及び環境省請負事業）

東京電力福島第一原子力発電所事故により環境中に放出された放射性物質について、海洋における放射性物質の調査結果の国際的な信頼性及び透明性の確保、向上のため、IAEA と協力して試験所間比較分析を実施した。同発電所付近において、当センターが中心となって海水、海底土及び水生生物（魚類及び海藻類）を採取し、複数の機関で分析を行った。各機関の結果は、それぞれが直接 IAEA へ報告した。

#### (2) 分析等に関する普及啓発事業

##### 1) 国際交流

###### ・国際相互比較分析への参加

IAEA が実施する国際的な環境放射能相互比較分析及び IAEA-ALMERA (Analytical Laboratories for the Measurement of Environmental Radioactivity) ネットワークメンバーによる放射能分析プログラムに参加し、概ね良好な結果を得た。

###### ・近隣諸国等の分析機関との技術交流

韓国、中国及び台湾の近隣諸国の関係機関と環境放射能調査に関する技術協力を以下のように実施した。

###### ✓ 韓国

KINS (Korea Institute of Nuclear Safety) との相互比較プログラムを実施した。

###### ✓ 中国

NIRP (National Institute for Radiological Protection and Nuclear



Safety, Chinese Center for Disease Control and Prevention) と RMTTC(State Environmental Protection Administration, Radiation Monitoring Technical Center) との相互比較プログラムを実施した。

✓ 台湾

RMC(Radiation Monitoring Center) との相互比較プログラムを実施した。

韓国、中国、台湾との運営会議は COVID-19 の影響で延期した。

2) 教育研修 (原子力規制庁委託事業)

環境放射能分析及び測定技術水準の維持・向上を図るため、47 都道府県の環境放射能モニタリング実施機関の実務担当者等を対象に、実習に重きを置いた 13 種 18 講座の研修を 156 名に実施した。なお、一部の講座については、対面とオンライン会議システムによるリモートを併用して実施した。「放射性ストロンチウム分析法」及び「ゲルマニウム半導体検出器による測定法」の研修生については、研修効果の確認を目的として、値付けした分析・測定用の試料を研修後に配付し、これらを実験及び測定する確認試験を実施した。また、原子力艦調査に係る現地調査班員への技術研修 (16 名、令和 4 年 5 月 31 日～6 月 2 日) を実施した。

3) 分析等に係る情報の収集と成果の公表

国内で開催された分析技術に関する研究発表会等に参加し、情報の収集と成果の口頭発表、ポスター発表及び論文発表を行った。また、ALMERA 19th Coordination Meeting に参加した。

(3) 分析等に関する情報の収集、整理及び提供事業

1) 放射線監視結果収集 (原子力規制庁委託事業)

国民の環境放射能への理解増進を図るため、環境放射能水準調査結果、原子力施設周辺の環境放射線監視結果等を収集し、過去の変動幅との比較を行った上で項目ごとに分類・整理し、環境放射線データベースに入力後、ウェブサイトにて公開した。さらに、データベースの運用・管理 (ウェブサイトの調整を含む) も併せて実施した。全国に設置されている環境放射能水準調査におけるモニタリングポストの空間放射線量率の測定結果については、リアルタイムに収集し、国のサーバーへ送信した。また、原子力艦放射能調査の一環として、原子力艦の寄港に係る放射能測定調査結果に関連する報告書等についても入力して管理した。

2) 環境放射能水準調査に係る技術検討会の開催 (原子力規制庁委託事業)

環境放射能水準調査実務担当者が一堂に会し、令和 4 年度の精度管理結果の説明、都道府県における環境放射線調査の現状や課題の発表等を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ウェブ会議による開催とした。また、新たな試みとして会議の進行の中でリアルタイム形式のアンケートを実施した。

3) 広報

当センターのホームページより、様々な情報を公開した。

4) 学会発表等

①スペクトル定量法とその  $\beta$ 、 $\gamma$ 、 $X$  線スペクトルへの適用

大島真澄、後藤淳、早川岳人、金政浩、鈴木勝行、沈海峰、佐野友一、篠原宏文

第 59 回アイソトープ・放射線研究発表会 令和 4 年 7 月 6 日～8 日 (オンライン)

②スペクトル定量法のための液体シンチレーションスペクトルの整備

鈴木勝行、後藤淳、大島真澄、沈海峰、佐野友一、篠原宏文

第 59 回アイソトープ・放射線研究発表会 令和 4 年 7 月 6 日～8 日 (オンライン)

③環境放射能モニタリングにおける精度管理

太田博、佐野友一、宮田賢、川村隆夫、田中真由子、江郁衣、太田智子、太田裕二

第 59 回アイソトープ・放射線研究発表会 令和 4 年 7 月 6 日～8 日 (オンライン)

④IAEA の国際緊急時対応演習に参加して

岡山杏菜、檜原陽子、豊岡慎介、宮田賢、今野裕太、太田裕二

第 59 回アイソトープ・放射線研究発表会 令和 4 年 7 月 6 日～8 日 (オンライン)

⑤IAEA ALMERA メンバーとしての Proficiency Test への参加について

佐野友一、飯田素代、石川正樹、石原史也、斎藤望美、鈴木颯一郎、宮田賢、佐久間  
亜美、太田智子、太田裕二

第 59 回アイソトープ・放射線研究発表会 令和 4 年 7 月 6 日～8 日 (オンライン)

⑥Development of Rapid and Sensitive Radionuclide Analysis Method by Simultaneous  
Analysis of  $\beta$ ,  $\gamma$ , and X-rays

Hirofumi Shinohara, Masumi Oshima, Yuichi Sano, Katsuyuki Suzuki, Haifeng Shen,  
Jun Goto, Tadahiro Kin, Takehito Hayakawa, Masahiro Taniguchi, Tomoko Haraga,  
Masato Asai

第 6 回福島第一廃炉国際フォーラム 令和 4 年 8 月 29 日

⑦大気中放射性キセノン濃度の水準調査

吉田森香、新田済、大槻孝之、磯貝啓介

日本放射化学会第 66 回討論会 令和 4 年 9 月 15 日～17 日

⑧大容量エアサンプルを用いた大気浮遊じん中 Pu 濃度の経年変化

鈴木颯一郎、佐藤昭二、新田済、大槻孝之、磯貝啓介

日本放射化学会第 66 回討論会 令和 4 年 9 月 15 日～17 日

⑨トリプル四重極型 ICP 質量分析計によるヨウ素 129 スクリーニング手法の開発

日比野有希、大野剛、阿部美波、佐藤昭二、王曉水、伴場滋、岸本武士、磯貝啓介

日本放射化学会第 66 回討論会 令和 4 年 9 月 15 日～17 日

⑩IAEA Proficiency Test における全  $\beta$  測定の検討

丹智史、鈴木颯一郎、黒田知孝、板倉淳子、大槻孝之、新田済

日本放射化学会第 66 回討論会 令和 4 年 9 月 15 日～17 日

⑪スペクトル定量法のガンマ線スペクトルへの適用性

大島真澄、後藤淳、早川岳人、金政浩、鈴木勝行、沈海峰、佐野友一、篠原宏文

日本放射化学会第 66 回討論会 令和 4 年 9 月 15 日～17 日

⑫センサーフュージョンによるスペクトル定量法の高度化

大島真澄、後藤淳、早川岳人、金政浩、鈴木勝行、沈海峰、佐野友一、篠原宏文

日本原子力学会 2022 年秋の大会 令和 4 年 9 月 7 日～9 日

⑬自然起源放射性物質に係る放射線防護上の論点

小池弘美、杉崎則彦、橋本周、太田裕二、甲斐倫明、飯本武志

第4回日本保健物理学会・日本放射線安全管理学会合同大会 令和4年11月24日～26日

⑭現地校正用コリメート照射装置によるエネルギー特性試験手法の開発

加藤昌弘、石井隼也、黒澤忠弘、田中博幸、杉山翠

第4回日本保健物理学会・日本放射線安全管理学会合同大会 令和4年11月24日～26日

⑮ $\beta$ 、 $\gamma$ 、X線同時解析による迅速・高感度放射性核種分析法の開発（委託研究）

—令和3年度英知を結集した原子力科学技術・人材育成推進事業—

JAEA-Review 2022-037 Jan. 2023

⑯ $\beta$ 、 $\gamma$ 、X線同時解析による迅速・高感度放射性核種分析法の開発

(1) スペクトル定量法とその1Fデブリ中40放射性核種分析への適用

大島真澄、後藤淳、早川岳人、篠原宏文、鈴木勝行、佐野友一、沈海峰、小林慧人、金政浩、浅井雅人

日本原子力学会 2023年春の大会 令和5年3月13日～15日

⑰ $\beta$ 、 $\gamma$ 、X線同時解析による迅速・高感度放射性核種分析法の開発

(2) SDM解析のGAGGシンチレータへの適用性

早川岳人、大島真澄、後藤淳、鈴木勝行、沈海峰、佐野友一、沈海峰、篠原宏文、金政浩

日本原子力学会 2023年春の大会 令和5年3月13日～15日

⑱ $\beta$ 、 $\gamma$ 、X線同時解析による迅速・高感度放射性核種分析法の開発

(3) Convolution法によるLSC標準スペクトルデータベースの作成

鈴木勝行、後藤淳、大島真澄、沈海峰、佐野友一、篠原宏文

日本原子力学会 2023年春の大会 令和5年3月13日～15日

⑲ $\beta$ 、 $\gamma$ 、X線同時解析による迅速・高感度放射性核種分析法の開発

(4) 機械学習を用いた試料中ガンマ線放出核種の迅速識別

金政浩、高橋龍平、後藤淳、大島真澄

日本原子力学会 2023年春の大会 令和5年3月13日～15日

⑳ $\beta$ 、 $\gamma$ 、X線同時解析による迅速・高感度放射性核種分析法の開発

(5) SDM法の精度向上に資する化学分離スキームの検討

小林慧人、佐野友一、沈海峰、鈴木勝行、大島真澄、篠原宏文

日本原子力学会 2023年春の大会 令和5年3月13日～15日

## 収益事業

### 1. 環境放射能等の分析及び測定

種々の放射性核種の分析を行った。

### 2. ドーピング禁止物質・規制薬物等の分析

スポーツサプリメント等を対象として14社123製品の分析を行った。また、「アンチ・ドーピングのためのスポーツサプリメント製品情報公開サイト (Sports Supplement Reference)」において6社92製品の情報を公開した。

### 3. 安定同位体比の分析

海産生物等の炭素、窒素の安定同位体比の分析を722試料実施した。

### 4. 研修

環境放射能の分析者の技術水準の維持、向上を図るため、原子力施設等で従事する民間機関及び地方自治体の実務担当者等を対象に、実習に重きを置いた4種8講座の研修を75名に実施した。

### 5. 技能試験

食品関連事業者の放射能測定の外部精度管理に寄与するために、一般財団法人日本食品検査と当センターが共同で放射性物質測定技能試験を実施し、43社が参加した。

## Ⅲ. 事業実施場所

- ・本部（千葉県千葉市）
- ・むつ分析科学研究所（青森県むつ市）

#### IV. 評議員会、理事会の開催

評議員会を1回、理事会を3回開催し、事業運営に関する重要事項について審議等を行った。

##### 1. 評議員会

第1回評議員会：令和4年6月16日から24日（郵送・決議の省略）

- |      |   |
|------|---|
| 審議事項 | ①令和3年度計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及び附属明細書並びに財産目録の件<br>②理事及び監事の選任の件<br>③評議員会運営規程等の改正の件 |
| 報告事項 | ①令和3年度事業報告及び附属明細書について<br>②令和4年度事業計画書及び収支予算書等について                                |

##### 2. 理事会

第1回理事会：令和4年6月3日（金）

- |      |   |
|------|---|
| 審議事項 | ①令和3年度事業報告及び附属明細書の件<br>②令和3年度計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及び附属明細書並びに財産目録の件<br>③定期提出書類の件<br>④理事及び監事の改選の件<br>⑤理事会運営規程の改正の件<br>⑥財務会計規程の改正の件<br>⑦定時評議員会の日時及び場所並びに議事に付すべき事項の件 |
| 報告事項 | ①代表理事の職務執行状況の報告<br>②業務執行理事の職務執行状況の報告  |

第2回理事会：令和4年6月24日（金）（郵送・決議の省略）

- |      |  |
|------|--|
| 審議事項 | ①会長及び代表理事選任の件<br>②理事長及び代表理事選任の件<br>③業務執行理事選任の件<br>④業務執行理事の業務分担の件 |
|------|--|

第3回理事会：令和5年3月20日（月）

- |      |  |
|------|--|
| 審議事項 | ①令和5年度事業計画書の件<br>②令和5年度収支予算書の件<br>③令和5年度資金調達及び設備投資の見込みの件 |
| 報告事項 | ①令和4年度決算見込みの報告<br>②代表理事の職務遂行状況の報告<br>③業務執行理事の職務執行状況の報告   |

## V. 附属明細書の作成について

上記の事業報告に関して、その内容を補足すべき重要な事項はありませんので、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第34条第3項に規定されている附属明細書は作成していません。